

むかしの高松

'92/11
第2号

“太田第2土地区画整理事業関係発掘調査の成果より”

むかしの高松 第2号

1992. 11. 1

編集/高松市教育委員会 文化振興課

高松市番町1丁目8番15号

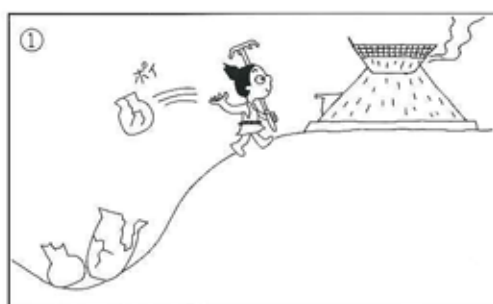
(TEL 39-2636)

発行/高松市教育委員会

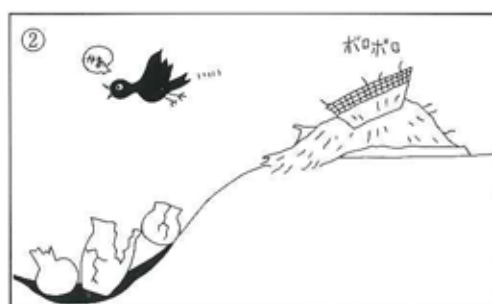
印刷/樺中央印刷所

凹原遺跡でも、弥生時代前期の、浅い窪地に深さ2 mほどに掘った溝が確認されています。次の弥生時代中期（約2000年前）では、竪穴住居を1棟確認しました。この住居からは、石器を作るときにできた石の屑が多く検出できました。石器を作る作業場のような建物だったのかも知れません。弥生時代後期末では、幾つかの竪穴住居のほか、溝などの遺構が確認されるとともに、ここでも、ムラの横を流れる川の跡に大量の土器が捨てられていました。

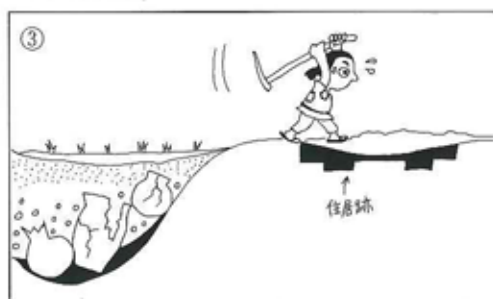
天満宮西遺跡、凹原遺跡は、発掘された遺構や遺物から、弥生時代を中心としたほぼ同時期の遺跡と考えられます。そこで、両遺跡の発掘成果から当時の人々の生活に迫ってみたいと思います。



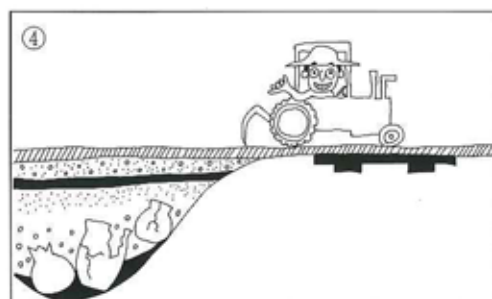
① 微高地に人が住み、湿地等に不用品を捨てていました。



② やがて人は他の土地に移ってしまいました。



③ 洪水などにより湿地等は埋まり、微高地は風化や人の耕作により削られました。



③を繰り返すことによって、今の平坦な高松平野ができました。

その前に当時の地形について少し触れておきましょう。

今の高松平野は、南高北低ですが、ほぼ平坦に近い状態です。しかし、弥生時代のころは数m余りの凸凹がいたるところに見られる土地でした。人々は、そのような凸地～微高地～に住居を建て、凹地～湿地、窪地、川～に水田をこしらえ、稲作を中心にした生活を始めました。微高地が風化作用だけでなく人間の耕作などによって削られ、川の上流から運ばれた大量の土砂とともに、削られた土が湿地などを埋め、現在のようにになりました。

凸凹した高松平野を、ならして平坦にする大規模な開発が始まったのが、この弥生時代とも言えます。

狩る

弥生時代では、米食が必ずしも中心ではなく、縄文時代以来の狩りも行っていました。遺跡からは、当時の石の矢じりが出土しました。



松縄町：天満宮西遺跡出土

摘む

秋の収穫の時期になると、実った稲穂を摘み取りました。鎌を使った根刈りではなく、稲穂だけを摘む穂首刈りでした。



松縄町：天満宮西遺跡出土



遺跡から出土した土器

水を汲んだり、食糧を保管したり、ものを煮炊きするのに使われた道具です。今皆さんが歩いている土の中には、過去の人々が残した、様々な土器が眠っています。

煮る

食物を調理する時には、土器の甕や壺を使って、煮炊きをしました。この壺の外表面には、火にかけて際の、ススが付いています。



松縄町：天満宮西遺跡出土

作る

坂出市金山から運んできたサヌカイトを使って、様々な石の道具～石器～を作りました。



多肥下町：凹原遺跡出土

飾る

碧玉へまぎょくという石材を細工した管玉くだたまやガラス玉のビーズで首飾りを作り、身を装っていました。



松縄町：天満宮西遺跡出土

住む



松縄町：天満宮西遺跡

竪穴住居と呼ばれるかや葺きの家が、彼らの住まいでした。確認された住居の広さから、当時の家族の人数を割り出すことができます。

捨てる

不用になった道具は集落の周囲や、掘った穴に捨てられました。特に土器は割れやすく、発掘するとその破片が大量に出土します。



松縄町：天満宮西遺跡

葬る



多肥下町：凹原遺跡

人が死ぬと、ムラの周囲や、低い山の上に墓をつくりました。土器や木棺に遺体を入れたり、板石で遺体を囲ったりしました。